

平成 25 年 2 月 15 日

外皮性能の計算方法 正誤表

修正前	修正後				
<p>p.2 12) 腰出窓 <u>壁面のほぼ腰の高さにある出窓</u></p>	<p>p.2 12) 腰出窓 <u>下端の床面からの高さが 300mm 以上の出窓をいう。</u></p>				
<p>p.2 13) 充填断熱 木造又は鉄骨造の構造体の内部に断熱層を設ける工法をいう。</p>	<p>p.2 13) 充填断熱 木造又は鉄骨造の構造体の内部に断熱層を設ける工法をいう。<u>ただし、天井における充填断熱とは、天井と屋根の間の空隙部分に熱橋部が生じないように充填する断熱工法をいう。</u></p>				
<p>p.3 27) 熱抵抗 材料内よ<u>よび</u>空気層を熱が流れる場合の抵抗をいい、内外の温度差が 1 度の場合において 1 平方メートルあたり貫流する熱量の逆数をワットで表した数値である。</p>	<p>p.3 27) 熱抵抗 材料内<u>および</u>空気層を熱が流れる場合の抵抗をいい、内外の温度差が 1 度の場合において 1 平方メートルあたり貫流する熱量の逆数をワットで表した数値である。</p>				
<p>p.5</p> <table border="1" data-bbox="280 1053 1019 1106"> <tr> <td style="text-align: center;">U_{HF}</td> <td>基礎等の熱貫流率</td> </tr> </table>	U_{HF}	基礎等の熱貫流率	<p>p.5</p> <table border="1" data-bbox="1176 1053 1915 1106"> <tr> <td style="text-align: center;">U_{FH}</td> <td>基礎等の熱貫流率</td> </tr> </table>	U_{FH}	基礎等の熱貫流率
U_{HF}	基礎等の熱貫流率				
U_{FH}	基礎等の熱貫流率				
<p>p.5</p> <table border="1" data-bbox="280 1153 1019 1206"> <tr> <td style="text-align: center;">H_F</td> <td>基礎等の温度差係数</td> </tr> </table>	H_F	基礎等の温度差係数	<p>p.5 左欄の削除</p>		
H_F	基礎等の温度差係数				
<p>p.6、計算式(1)について</p>	<p>p.6、計算式(1)について</p>				

$U_A = \left(\sum_i^n A_i U_{H,i} + \sum_j^m L_{F,j} U_{HF,j} \right) / A$	$U_A = \left(\sum_i^n A_i U_{H,i} + \sum_j^m L_{F,j} U_{FH,j} \right) / A$
<p>p.6 $U_{HF,j}$: 第 j 基礎等の . . .</p>	<p>p.6 $U_{FH,j}$: 第 j 基礎等の . . .</p>
<p>p.7、計算式(2)について</p> $q = \sum_i^n (A_i \times U_{H,i}) + \sum_j^m (L_{F,j} \times U_{HF,j})$	<p>p.7、計算式(2)について</p> $q = \sum_i^n (A_i \times U_{H,i}) + \sum_j^m (L_{F,j} \times U_{FH,j})$
<p>p.7 $U_{HF,j}$: 第 j 基礎等の . . .</p>	<p>p.7 $U_{FH,j}$: 第 j 基礎等の . . .</p>
<p>p.8 U_i : 外皮等の熱貫流率で、当該部位の構造種別に応じ <u>8.2.1</u>、<u>8.2.2</u> 及び <u>8.2.3</u> に示す計算法のいずれかを用いて求めた値 (外皮等である開口部は <u>8.2.5</u> により求める熱貫流率) (単位 W/(m²K))</p>	<p>p.8 U_i : 外皮等の熱貫流率で、当該部位の構造種別に応じ <u>9.2.1</u>、<u>9.2.2</u> 及び <u>9.2.3</u> に示す計算法のいずれかを用いて求めた値 (外皮等である開口部は <u>9.2.5</u> により求める熱貫流率) (単位 W/(m²K))</p>
<p>p.8 上記において部位 i の第 n 番目の異種断面部分の熱貫流率 $U_{i,n}$ の計算方法は <u>8.2.4</u> に示す。</p>	<p>p.8 上記において部位 i の第 n 番目の異種断面部分の熱貫流率 $U_{i,n}$ の計算方法は <u>9.2.4</u> に示す。</p>
<p>p.10 $U_{g,c,i}$: 鉄筋コンクリート造部位 i における熱橋部を除く一般部の熱貫流率で <u>8.2.4</u> により算出する。 (単位 W/(m²K))</p>	<p>p.10 $U_{g,c,i}$: 鉄筋コンクリート造部位 i における熱橋部を除く一般部の熱貫流率で <u>9.2.4</u> により算出する。 (単位 W/(m²K))</p>
<p>p.20 $\psi_{s,i,j}$: 鉄骨造等の線熱貫流率で、熱橋部の形状及び室の配置等に応じ柱にあっては表 13、梁にあっては表 14 で定める値 (単位 : W/(mK))</p>	<p>p.20 $\psi_{s,i,j}$: 鉄骨造等の線熱貫流率で、熱橋部の形状及び室の配置等に応じ <u>外皮に接する柱</u> にあっては表 13、梁にあっては表 14 で定める値 (単</p>

	位：W/(mK)
p.24 基礎等の温度差係数を勘案した熱貫流率 $U_{HF,j}$ は、式（15）により算出する。	p.24 基礎等の温度差係数を勘案した熱貫流率 $U_{FH,j}$ は、式（15）により算出する。
p.24 $U_{HF,i} = U_{F,j} \times H_j$	p.24 $U_{FH,i} = U_{F,j} \times H_j$
p.25 W ： W_2 及び W_3 の寸法のうちいずれか大きい方の寸法。ただし、0.9を超える <u>ばあい</u> は0.9とする。（単位 m）	p.25 W ： W_2 及び W_3 の寸法のうちいずれか大きい方の寸法。ただし、0.9を超える <u>場合は</u> 0.9とする。（単位 m）
p.35 $f_{H,i,j}$ ：表4の（い）「暖房期」に定める係数。ただし、当該窓の上部に・・・	p.35 $f_{H,i,j}$ ：表4の（い）「暖房期」に定める係数若しくは地域の区分、ガラスの種別等に応じ「 <u>取得日射量の補正係数</u> 」の数表「 $\ell 1$ 又は $\ell 2 = 20$ 」欄で定める値。ただし、当該窓の上部に・・・
p.35 $f_{C,i,j}$ ：表4の（ろ）「冷房期」に定める係数。ただし、当該窓の上部に・・・	p.35 $f_{C,i,j}$ ：表4の（ろ）「冷房期」に定める係数若しくは地域の区分、ガラスの種別等に応じ「 <u>取得日射量の補正係数</u> 」の数表「 $\ell 1$ 又は $\ell 2 = 20$ 」欄で定める値。ただし、当該窓の上部に・・・
p.36 f_1 、 f_2 ：式(7a)及び式(7b)により定義される l_1 及び l_2 をパラメーターとして、付属書表 A-2-1 から A-2-8 より算出した値	p.36 f_1 、 f_2 ：式(7a)及び式(7b)により定義される l_1 及び l_2 をパラメーターとして、 <u>地域の区分、ガラスの種別等</u> に応じ「 <u>取得日射量の補正係数</u> 」より算出した値

【修正の主旨】

p.35 $f_{H,i,j}$ および $f_{C,i,j}$ について、地域の区分及びガラスの種別等に応じ、より精緻な計算を行うことを可能とするために、計算方法の追加を行いました。

その他、誤字を修正しました。